

ダイキン ルームエアコン

据 付 説 明 書




二次元バーコードは製造用コードです。

安全上のご注意


●据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。  
ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。


 <b>警告</b>	誤った据付けにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 <b>注意</b>	誤った据付けにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
---	--	---	--

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

 <b>指示を守る</b>	 <b>アース線接続</b>	 <b>禁止</b>
--	---	---

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

 <b>警告</b>	
●据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 お客様自身で据え付けられれば不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。	●室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖カバーまたは右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。 カバーの取付けが不完全な場合、端子部の発熱や感電、火災の原因になります。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に進行。 据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。	●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。 空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
●設置工事は、必ず付属品および指定の部品を使用する。 指定部品を使用しないと、ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因になります。	●指定冷媒(R410A)以外は使用しない。 機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。
●据付けは、重量に十分耐える所に確実に進行。 強度不足や取付けが不完全な場合、ユニットの落下により、けがの原因になります。	●ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
●電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると、火災や感電の原因になります。	●据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。 冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
●据付工事は、必ず電源を切って行う。 電源を入れたまま電気部品に触れると感電の原因になります。	●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
●アース工事を確実に進行。 アース線は、ガス管や水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 アースが不完全な場合は、感電や火災の原因になります。	●設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーターやコンロ、ストーブなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
●漏電しゃ断器を取り付ける。 漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になります。	●配管・フレアナット・工具は指定冷媒(R410A)専用のものを使用する。 既存冷媒(R22)の配材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
●配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。 施工不備があると、発熱や感電、火災の原因になります。	●調理室など油煙の多い所、または可燃性ガスや腐食性ガス、金属製のホコリのある場所には設置しない。 火災や故障の原因になります。
●室内外ユニット間および電源の配線は、所定の電線を使い確実に接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。 接続や固定が不完全な場合、発熱や感電、火災の原因になります。	●可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。 ひび割れや感電、引火の原因になります。

 <b>注意</b>	
●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない。 万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまると、発火の原因になります。	●室内外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない。 けがの原因になることがあります。
●ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合は屋内に浸水し、家財などをぬらす原因になることがあります。	●フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。 フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
●室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。 鋭利な板金によりけがの原因になることがあります。	●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

据付場所の選定

●据付場所は、お客様の同意を得て決定してください。

室内ユニット

- 室内外ユニット据付図②の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
- 直射日光のあたらない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 機械油などの油の蒸気が発生しない所。  
(室内ユニットの寿命が短くなることがあります。)
- 冷(温)風が部屋全体に行きわたる所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。  
(リモコンの受信距離が短くなる場合があります。)

- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。  
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります。)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。

室外ユニット

- 室内外ユニット据付図②の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。  
(降雪地では、雪でふさがれない所。)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない所。

- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けられない所。  
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあるため。)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所では、室外ユニットの寿命が短くなる場合があります。
- 運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。  
(特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および都道府県の条例などを満足すること。)
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。

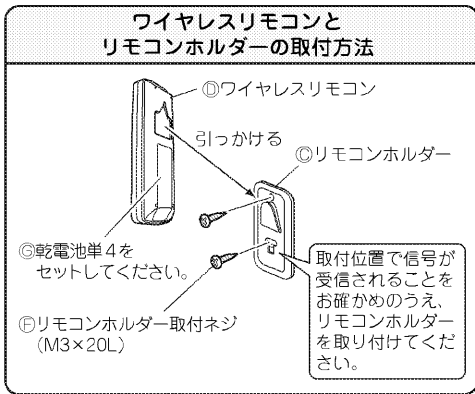
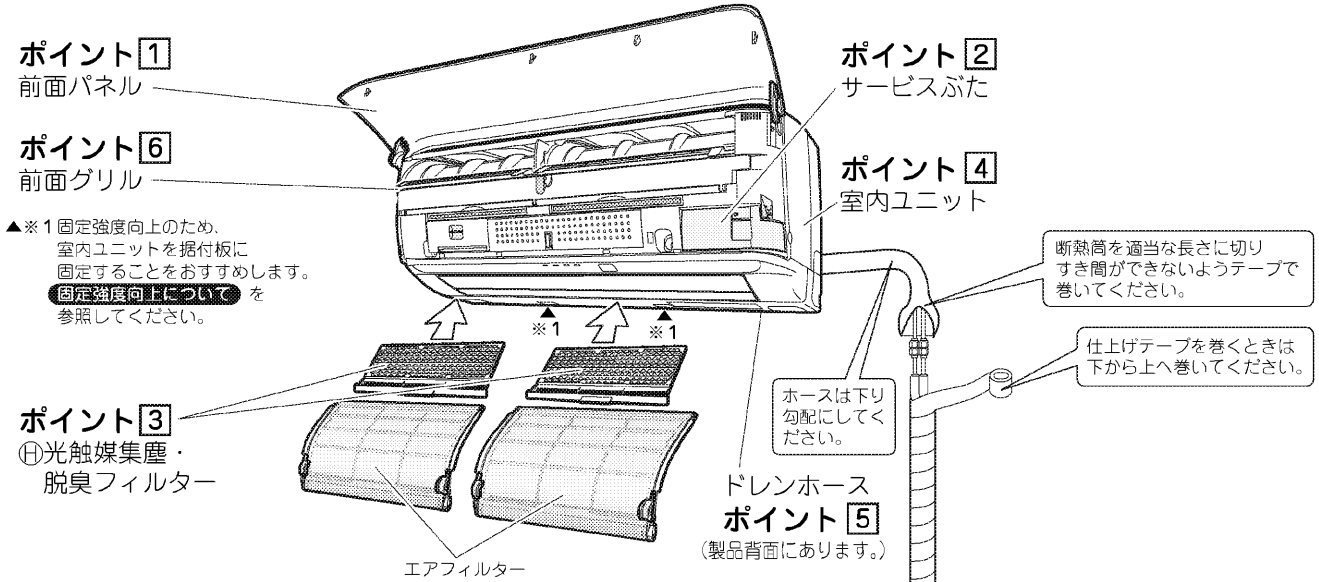
リモコン

- 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させ、リモコンの信号を室内ユニットが受信できる位置に取り付けてください。

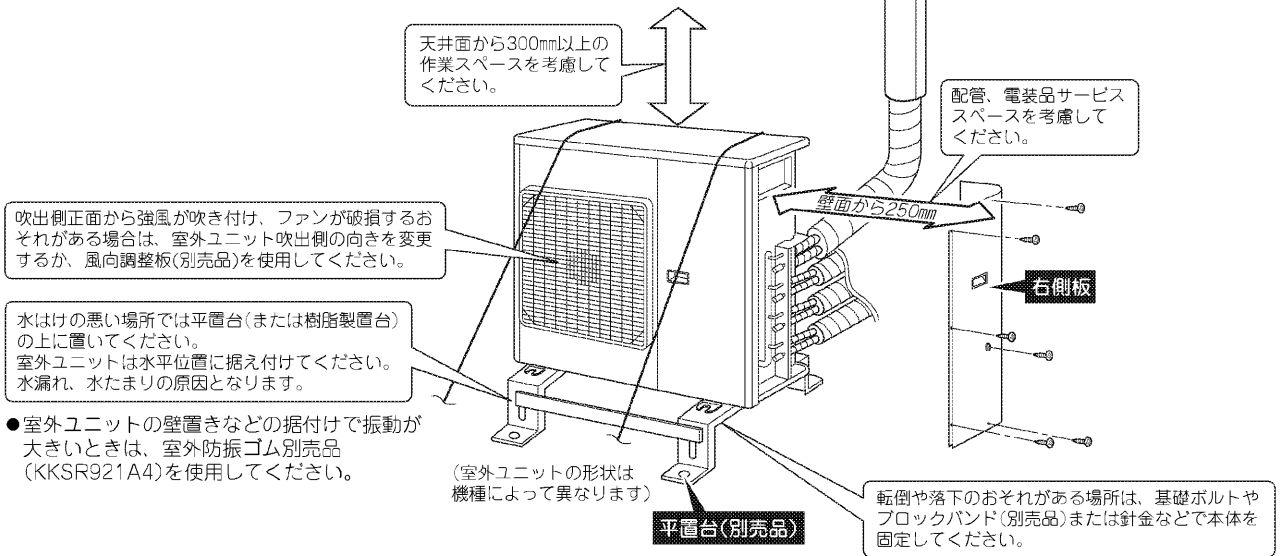
# 室内外ユニット据付図 ①

- ①真空ポンプを使用しエアパージを行ってください。
- ②移設する場合は、必ずポンプダウンを行い室外ユニットへ冷媒を回収してください。
- ③室内ユニットは前後左右の傾きに注意してください。

据付終了後、固定用テープ(青色)を外してください。



- システムマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法等はマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法等はBPユニットに付属の据付説明書に従ってください。



# 付 属 部 品

## 室内ユニット

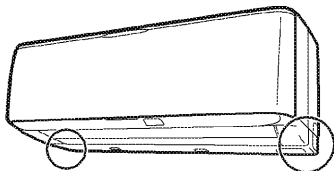
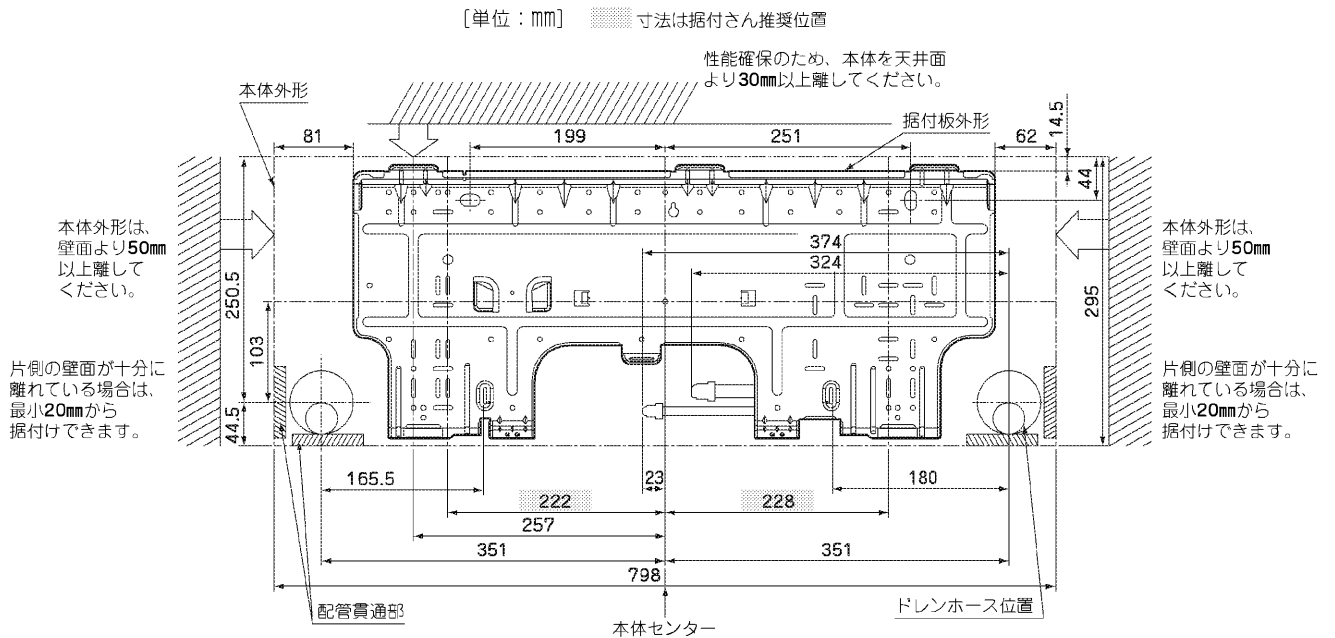
㊦ 据付板 1枚	㊧ 据付板取付ネジ M4×25L 7本	㊨ リモコンホルダー 1個
㊩ ワイヤレス リモコン 1個	㊪ 室内ユニット/ドレンホース 固定ネジ M4×12L 3本	㊫ リモコンホルダー 取付ネジ M3×20L 2本
㊬ 乾電池単4 2本	㊭ 光触媒集塵・ 脱臭フィルター 2個	㊮ 断熱テープ 1個
㊯ 取扱説明書 ㊰ 据付説明書	㊱ 保 証 書	
各1部		

## 室外ユニット

- システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書を確認してください。

# 室 内 外 ユ ニ ッ ト 据 付 図 ②

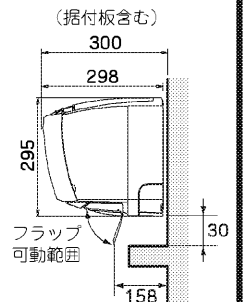
## 室内ユニットの据付所要スペース



配管化粧カバーの大きさに合わせて前面グリルを切り取ってください。(4ヵ所共同一形状)

### 据付時のご注意

カーテンレールなどの上に取付けの際は、運転時のフラップ可動範囲を確保した上で設置してください。



## 室外ユニットの据付所要スペース

- システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

# 穴あけ

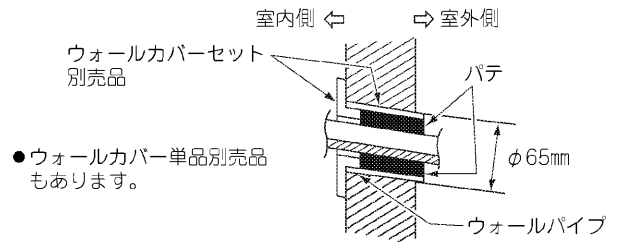
## 警告

特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、ウォールパイプとウォールカバーを必ず使用してください。発熱、感電、火災の原因になります。

## 注意

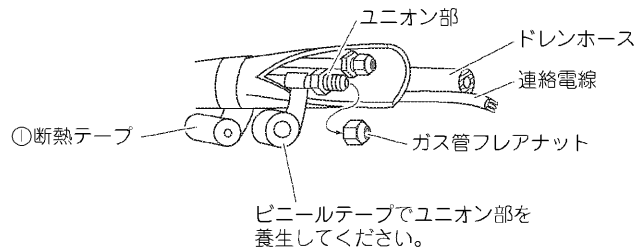
壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをしてください。水漏れの原因となります。

- ①壁にφ65mmの穴を、室外側が下がり勾配に開けます。
- ②ウォールパイプを穴に通します。
- ③ウォールカバーをウォールパイプに差し込みます。
- ④パテを使って仕上げます。



## 壁貫通穴がφ60mmの場合

- 施工しにくい場合は、ガス管のフレアナットを取り外し、ビニールテープなどでユニオン部を養生した後、すべての配管を①断熱テープで巻き、ウォールカバーに挿入します。
- ウォールカバーに挿入しにくい場合は、室内ユニットのビニールカバーなどで配管を巻いてください。すべりやすくなり挿入しやすくなります。
- ウォールカバーは、極力肉厚の薄い物を使用してください。



# 据付板の取付け

- **室内外ユニット据付図②** 室内ユニットの据付所要スペースを参照し、下記いずれかの方法で取り付けてください。
- **㊦** 据付板は室内ユニットの背面にあります。ネジ1本を外してください。

ネジ取付例の位置にネジ止めることをおすすめします。

## ■壁に直接取り付ける場合

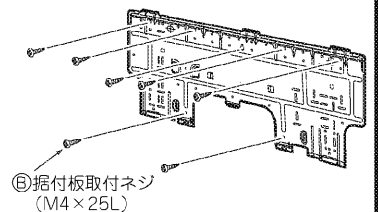
- ①㊦据付板を仮止めし、水平を確認します。
- ②メジャーを使って穴あけ位置を確認します。
- ③㊦据付板を壁に固定します。

## ■回り縁と鴨居に取り付ける場合

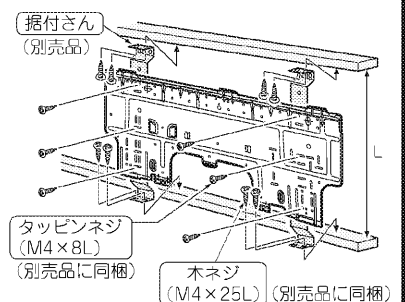
別売品の据付さんを用意してください。

- ①㊦据付板を据付さんに仮止めします。
  - 寸法は、420~700mmまで調節できますが、420mm以下でご使用の場合は、据付さんを切って調節してください。
  - 据付状態により、据付さんを上下逆で使用することもできます。
- ②メジャーを使って穴あけ位置を確認し、据付さんを固定します。
- ③㊦据付板の水平を確認し、仮止めしたネジを締めます。

## 据付板を壁に固定するネジの取付例

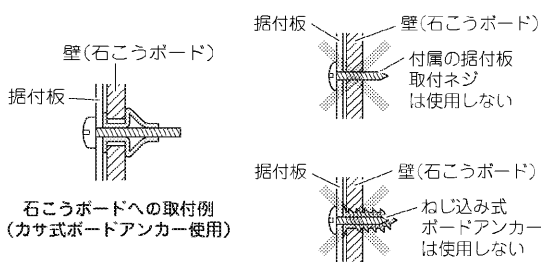


## 据付板を据付さんに固定するネジの取付例



## 注意

- 石こうボードの壁に直接取り付ける場合、付属の据付板取付ネジは使用しないでください。付属のネジは、木ネジのため、石こうボードには固定できません。
- 石こうボードに直接取り付ける場合、適切な固定具を選択し、使用方法をよく確認した上で使用してください。
- ねじ込み式ボードアンカーでは、極端に保持強度が落ちる場合がありますので使用しないでください。



## 警告

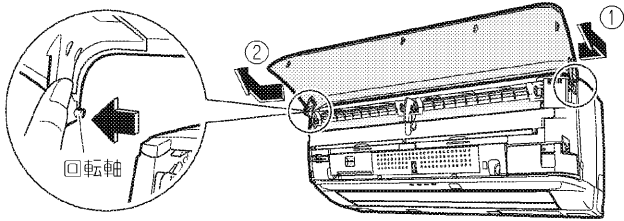
据付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。

# ポイント ①

## 1 前面パネルの取外し、取付けた

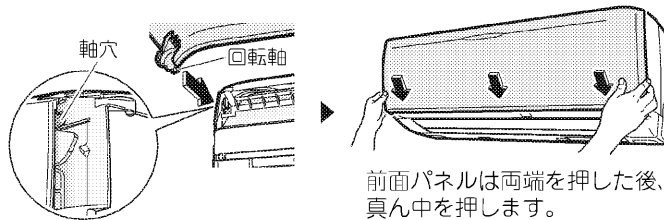
### ■取外しかた

前面パネルが止まる位置まで開き、さらに開きながらパネルを外側へスライドし、手前に引いて片側の軸を外します。同様に反対側の軸も外します。



### ■取付けた

前面パネルの左右の回転軸を室内ユニットの軸穴に合わせて取り付けます。そのままゆっくりパネルを閉じます。

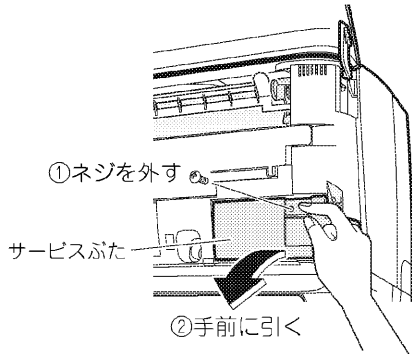


## 2 室内ユニットサービスふたの開けかた

サービスふたは着脱式です。

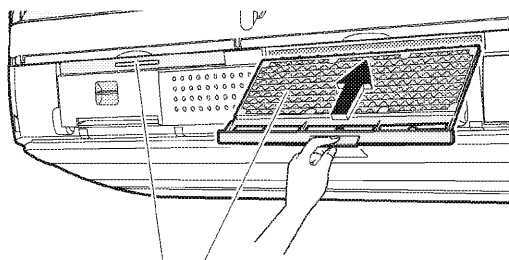
### ■開けかた

- ① サービスふたのネジを外します。
- ② サービスふた上のツマミを持ち、手前に引きます。



## 3 光触媒集塵・脱臭フィルターの取付けた

前面パネルをあけて、光触媒集塵・脱臭フィルターを取り付けます。(2カ所)



光触媒集塵・脱臭フィルター

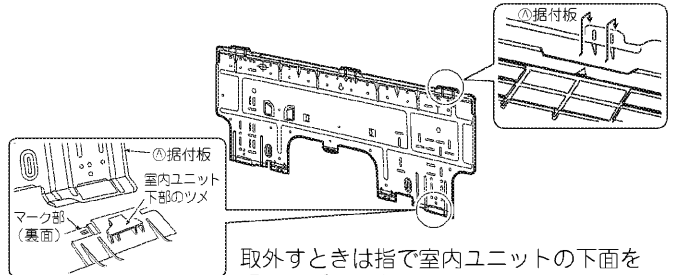
## 4 室内ユニットの取付け、取外しかた

### ■取付けかた

- ① 室内ユニット上部(3カ所)の△マーク部を目印にして、㊸据付板のフックに室内ユニットを引っかけてください。
- ② 室内ユニット下部のツメ(2カ所)を㊸据付板に引っかけます。ツメが引っかからない場合は、前面グリルを外して作業してください。(ツメのかりを確認してください。)

### ■取外しかた

前面グリル下のマーク部分を上へ押し上げ、ツメを外し、持ち上げて外します。



取外すときは指で室内ユニットの下面を押し上げツメを浮かします。(前面グリル下のマーク部分2カ所)

## 5 ドレンホース、ドレンプラグの付替えかた

### 左側へ付け替える方法

- ① 右側の断熱材取付ネジを外してドレンホースを抜き取ります。
- ② 右側の断熱材取付ネジをもとどおり取り付けます。(付け忘れると水漏れの原因になります。)
- ③ 左側にあるドレンプラグを抜き取り、右側に取り付けます。
- ④ ドレンホースを差し込んで、付属の㊸固定ネジで取り付けます。

**ドレンホース取付位置**

● ドレンホースは製品背面にあります。

左側

左側取付状態

右側

右側取付状態  
(製品出荷時)

製品正面

**ドレンプラグの付けかた**

差込み時、潤滑油(冷凍機油)などを塗布しないでください。塗布すると劣化し、水漏れの原因になります。

六角レンチ(対辺4mm)を使用して差し込んでください。

# ポイント ②

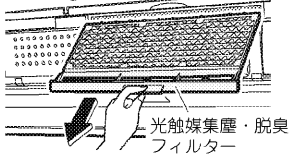
## 6 前面グリルの取外し、取付かた

### ■取外しかた

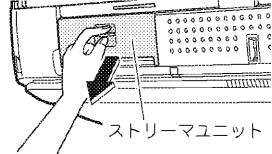
- ①前面パネルを外します。
- ②光触媒集塵・脱臭フィルター、ストリーマユニット、ダストボックス、フラップ(小)を外します。【図1、2、4】を参照
- ③前面グリルのネジ(3本)を外します。【図3】を参照
- ④前面グリルの上部にあるフック部(3カ所)をマイナスドライバーで持ち上げながらツメを外します。  
(○○○マーク部が目印)【図5】を参照

【図1】

光触媒集塵・脱臭フィルターを取り外す

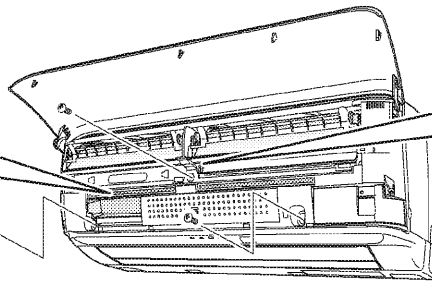


ストリーマユニットを取り外す

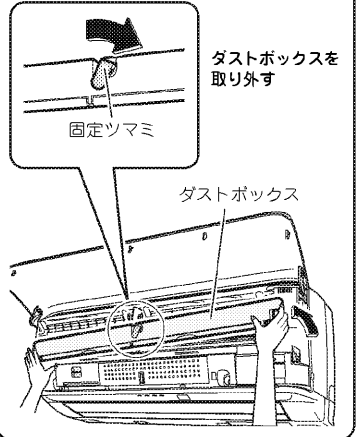


【図3】前面グリルのネジ位置について(3カ所)

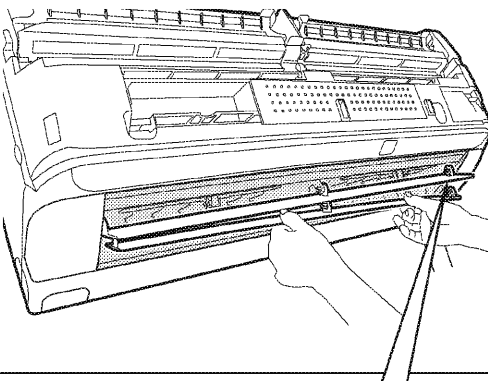
ダストボックスの取付け、取外しかたは、取扱説明書を参照してください。



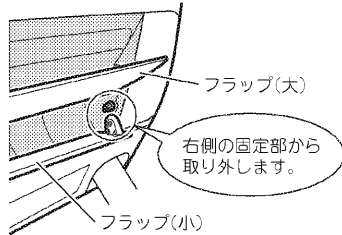
【図2】ダストボックスを取り外すとネジが現れます。



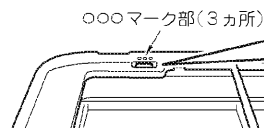
【図4】フラップ(小)について



【拡大図】

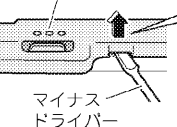


【図5】



前面グリルフック部について

○○○マーク部(3カ所)



マイナスドライバー

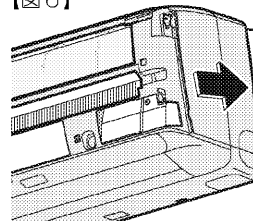
### 注意

- 前面グリルが割れないよう注意してください。
- フィルターが傷付かないよう注意してください。

### ■取り付けかた

- ①前面グリルを製品下部に合わせ、奥まで押し込みます。  
【図6】を参照
- ②前面グリルのフック部(3カ所)を確実に引っかけます。
- ③前面グリルのネジ(3本)で締め付けます。
- ④フラップ(小)をもとどおりに取り付けます。
- ⑤ダストボックス、ストリーマユニット、光触媒集塵・脱臭フィルター、前面パネルを取り付けます。

【図6】



【前面グリルを取り付ける際のご注意】

光触媒集塵・脱臭フィルターとストリーマユニットが外されていることを確認してください。  
正しく前面グリルが取り付けられません。

# 室内ユニットの据付け①

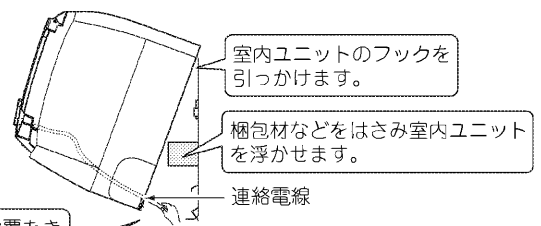
## 1 据付板の取付け、穴あけ

据付場所を確認してください。

詳細は「穴あけ」、「据付板の取付け」を参照してください。

## 2 連絡電線の取付け

- ①前面パネルを開け、サービスふたを取り外します。
- ②連絡電線を室内ユニット背面から前面へ引き出します。  
予め配線の先端を上へ曲げておくと引き出しやすくなります。
- ③④据付板に引っかけた後で連絡電線を接続する場合は、右図の要領で接続してください。



予め連絡電線の被覆むきを行う場合は、電線先端をテーピングし束ねると通しやすくなります。

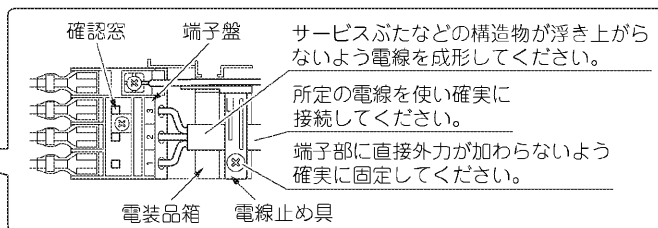
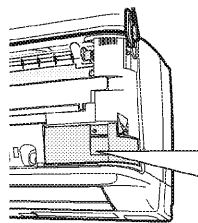
連絡電線が引っかけられないよう下方に引き下げてください。

## 配線工事について

### ⚠ 警告

- 据付工事は、必ず電源を切って行ってください。電源を入れたまま電気部品に触れると、感電の原因になります。
- 配線の途中接続、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしないでください。発熱、感電、火災の原因となります。
- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まないでください。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください。) 発熱・火災の原因になります。
- 設置場所によっては、漏電しゃ断器の取付けが必要です。  
漏電しゃ断器は通常タイプをご使用ください。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」[内線規程]に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。  
電源回路容量不足や施工不備があると、火災、感電の原因になります。

- ①電線の被覆むきを行います。(必ず15mm)
- ②電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込みます。
- ③確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめます。
- ④電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定します。
- ⑤サービスふたを取り付けます。

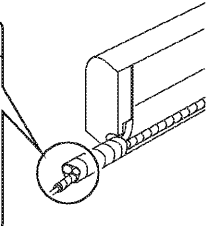
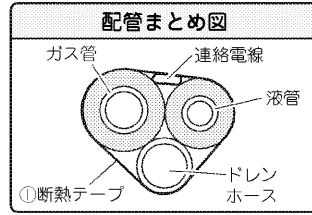


- **システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 室内アース工事、HAシステムとの接続、室内ユニットを2台設置される場合は各々裏面の **アース工事**、**HAシステムと接続する場合**、**同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合** を参照してください。

# 室内ユニットの据付け②

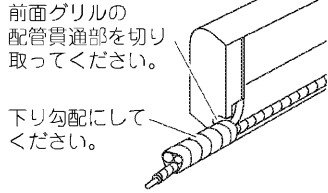
## 3 配管、ホース、電線の引き回し

- 下記配管取出方向により、配管、ドレンホースの引き回しを行ってください。
- ドレンホースは必ず下り勾配をとってください。
- 配管、ドレンホースは、①断熱テープでまとめて巻いてください。

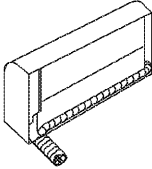


### 右、右後、右下配管の場合

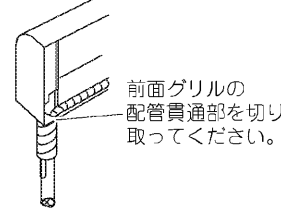
#### 右配管の場合



#### 右後配管の場合



#### 右下配管の場合



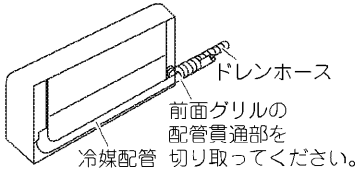
#### 切り取った配管貫通部の保管

- 室内ユニットの配管貫通部を切り取った場合は△据付板に保管してください。(移設時に必要な場合があります。)

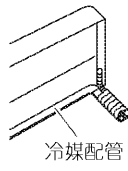
- ① 配管まとめ図のように、配管、ホース、連絡電線を①断熱テープで巻きます。
- ② 配管類を壁貫通穴より引き出し、室内ユニットを△据付板に引っかけます。
- ③ 配管を接続します。  
(断熱方法と締付トルクについては、**室外ユニットの据付け** 参照。)  
(必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。)

### 左、左後、左下配管の場合

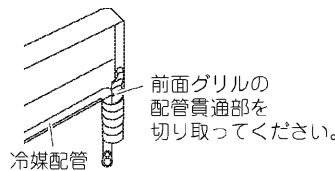
#### 左配管の場合



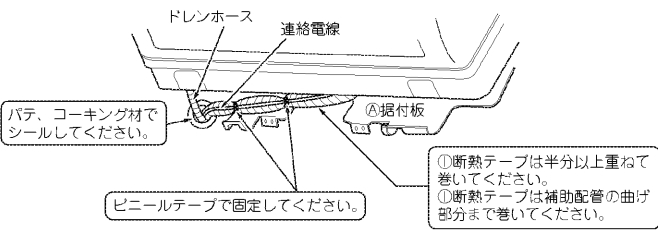
#### 左後配管の場合



#### 左下配管の場合



- ① ドレンプラグとドレンホースを付け替えます。  
(**ポイント①** **5** | **ドレンホース、ドレンプラグの付替えかた** を参照)
- ② 冷媒配管を引き込み、据付板上に刻印されている液管、ガス管のマークに合わせて成形します。
- ③ 室内ユニットを△据付板に引っかけます。
- ④ 配管を接続します。作業がやりづらい場合は、前面グリルを取り外し作業してください。  
● 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回しで3~4回転ねじ込み、その後所定のトルクでしっかりと締め付けます。  
(断熱方法と締付トルクについては、**室外ユニットの据付け** 参照。)  
(必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。)
- ⑤ 配管の断熱材を①断熱テープで巻きます。ドレンホースを付け替えない場合、下図の位置に収納してください。



## 4 電線の処理

- ① 連絡電線をはさまないよう注意しながら、室内ユニットの下部を両手で押しつけ、ツメに引っかけます。  
室内ユニットが△据付板に引っかからない場合は本体をネジ止めしてください。

### ドレン工事について

- ドレン工事は、特に右図の点に注意してください。
- ドレンホースの延長または埋め込み配管を行うときは先端形状にあった部材を使用してください。【ドレンホースの先端形状図】

- ドレンホースを延長する場合は、内径16mmの市販の延長用ドレンホースを使用してください。

- 埋め込み配管などでドレンホースに直接硬質塩ビ管(呼び径13)を接続する場合は、市販の硬質塩ビ管継手(呼び径13)を使用してください。

- ドレンチェックは、エアフィルターを外し、水を熱交換器に伝わらせてドレンパンにそそぎこみ、ドレンホースから水が流れ出ることを確認してください。

**注意**  
換気扇などを使用した場合ドレンホースから異音(ボコボコ音)が発生することがあります。その場合はドレンホース用逆止弁を使用してください。(別売品: KHDT1416を推奨します。)

(裏面につづく)



## 室外ユニットの据付け

- **システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

### ■フロンについて



家庭用マルチエアコンには最大でCO<sub>2</sub>（温暖化ガス）10,500 kg に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを注意喚起するための表示です。

## アース工事

- **システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

## 固定強度向上について

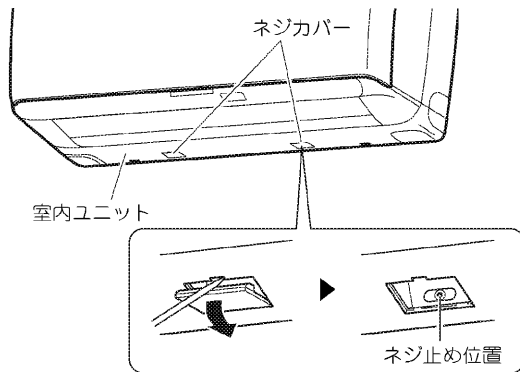
固定強度向上のため、室内ユニットを据付板にネジ止めすることをおすすめします。

- ① 前面グリル底面のネジカバーをドライバーなどで外します。
- ② 室内ユニットを㊸固定用ネジでネジ止めします。
- ③ ネジカバーを取り付けます。

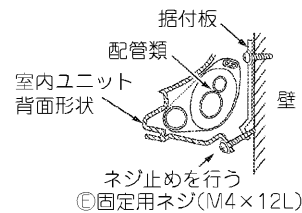
### ⚠ 注意

前面グリルが傷付かないよう注意する。

### ■ネジ止め位置



[断面拡大図]



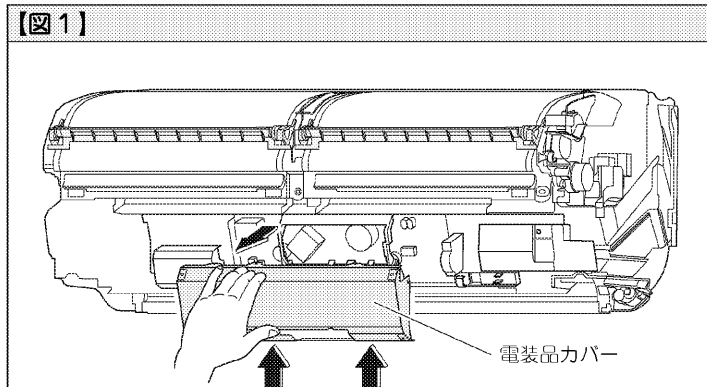
必要な  
ときに

# HAシステムと接続する場合

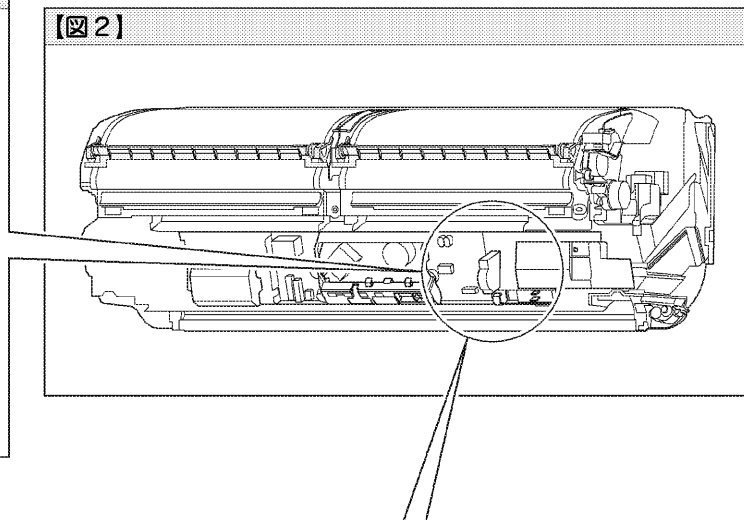
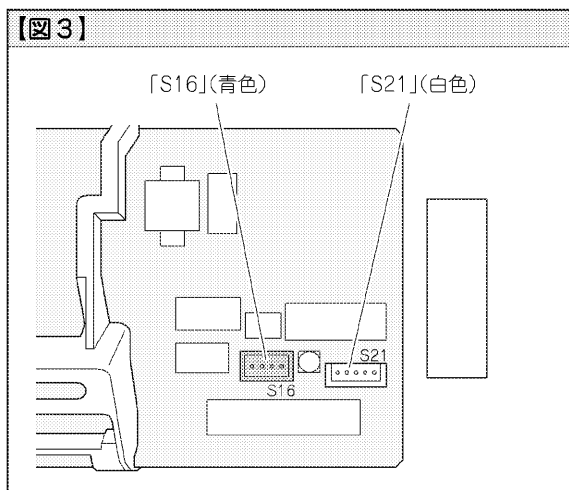
1. 前面パネル、フラップ(小)、前面グリルを外します。(ネジ3本)  
表面の **ポイント 1・6** を参照ください。

アルミ部などで  
手を切らないよう  
注意してください。

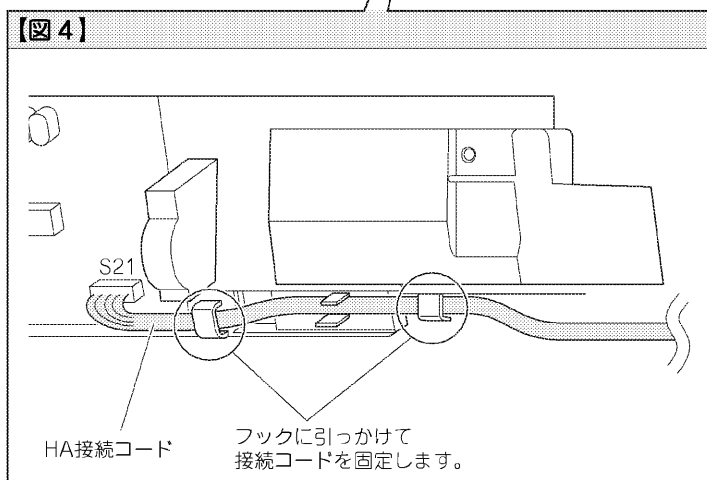
2. 電装品カバーを取り外します。  
(ツメ3カ所)【図1参照】



3. HA接続コードをHAコネクタ「S21」(白色)に  
挿入します。【図2、3参照】  
(JEM-A規格のHAコネクタの場合は「S16」(青色)に挿入します。)



4. HA接続コードを引き回します。【図4参照】



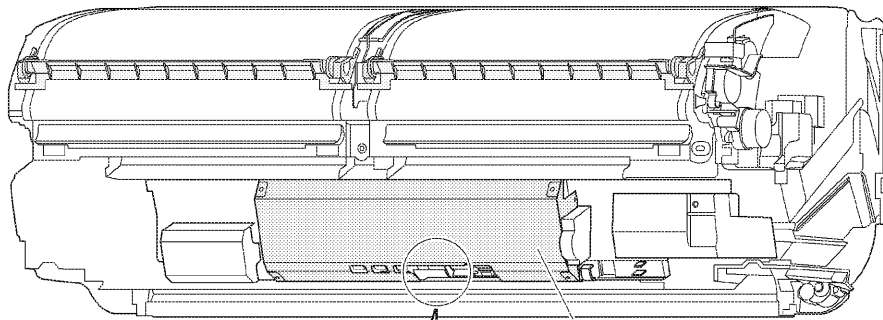
5. 電装品カバーをもとどおり取り付けます。(ツメ3カ所)
6. 前面グリル、フラップ(小)、前面パネルをもとどおり取り付けます。

必要な  
ときに

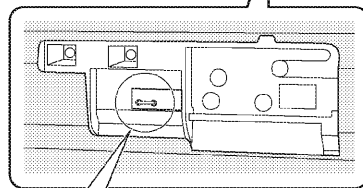
## 同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。

1. 前面グリルを外します。(ネジ3本)  
**ポイント② ⑥**を参照ください。
2. アドレスジャンパー「J2」を切断します。【図1参照】
3. もとどおり、前面グリルを取り付けます。



アルミ部などで  
手を切らないよう  
注意してください。



【図1】

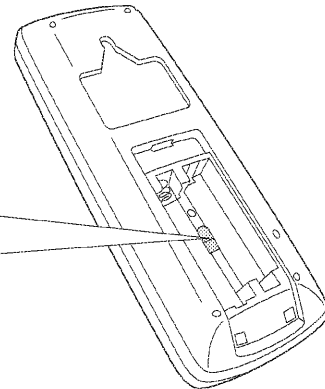
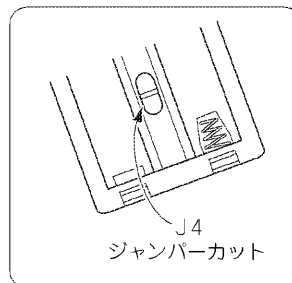
J2	アドレス
有	1
無	2

4. リモコンの電池カバーを外してアドレスジャンパーを切断します。【図2参照】

【図2】

ジャンパーカット時には、  
周囲の部品を傷つけない  
よう注意してください。

J4	アドレス
有	1
無	2

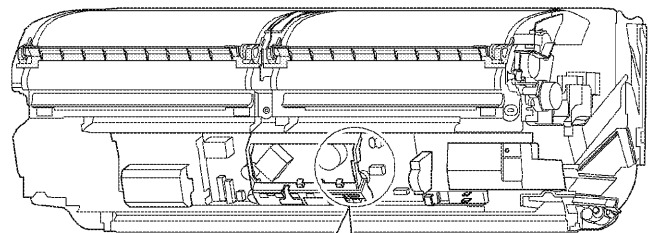


必要な  
ときに

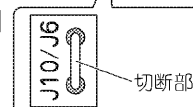
## 他室運転機能を「切」にする場合

システムマルチ用室内ユニットのみ他室運転機能があります。  
ワイドセレクトマルチ用室内ユニットについては対象外です。

1. 電装品カバーを取り外します。  
**HAシステムと接続する場合**を参照ください。
2. ジャンパー「J10/J6」を切断します。【図1参照】
3. もとどおり前面グリルを取り付けます。



【図1】



ジャンパーを切断する以外に、リモコンの設定で「切」  
することもできます。詳細は取扱説明書を参照してください。

# 試運転と確認



- **システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

**前面グリルを必ず取り付けてから、試運転を行ってください。**

## 試運転と確認

- ①電源電圧を測定し、仕様どおりか確認します。
- ②試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。  
冷房運転のときはいちばん低い設定温度に、暖房運転のときはいちばん高い設定温度に合わせます。
  - 室内温度によっては冷房・暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。
  - 試運転後には適切な温度（冷房の場合26～28℃、暖房の場合20～22℃）に戻してください。
  - 停止後3分間は機械保護のため運転を行いません。
- ③取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認します。
- ④リモコンのアドレススイッチの設定を確認します。  
出荷時はアドレススイッチ「1」です。
  - エアコンを運転しないときでもいくら電力を消費しています。  
据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、むだな電力消費をさけるためブレーカーを切ってください。

## 試運転モードの方法 (リモコンを使用します)

- ①「運転/停止」ボタンを押します。(運転開始します。)
  - ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押します。
  - ③「運転切換」ボタンを2回押すと試運転モードになります。画面に「」が表示されます。試運転は、「空清」以外で確認してください。  
(「」が表示され試運転モードになります。)
- 試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

**エアコンの運転が停止していることを確認してから、おそうじ運転を行ってください。**

## おそうじ運転の確認

- リモコンの「フィルター掃除」ボタンを押します。
- おそうじ運転の動作確認を行ってください。

**据付工事後に、必ず確認してください。**

**確認項目** チェック項目  欄でチェック(☑)をしてください。

チェック項目	不良の場合
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられていますか。	落下・振動・騒音
<input type="checkbox"/> 光触媒集塵・脱臭フィルターは取り付けましたか。 <input type="checkbox"/> エアフィルターは正しく取り付けましたか。	騒音・結露・おそうじ運転不能
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行いましたか。 (ガス管、液管、室内ユニット側のドレンホース延長部)	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレンの排水はチェックしましたか。	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認しましたか。	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)は出ませんか。	別売品ドレンホース用逆止弁使用
<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実ですか。	漏電時危険
<input type="checkbox"/> 電線は仕様どおりですか。	運転不能・焼損
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸入口、吹出口が障害物でふさがっていませんか。 <input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いていますか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認しましたか。	運転不能
<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認しましたか。	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

- この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。  
(据付工事後、お客様にお渡しく下さい。)







